

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	株式会社 シンワ 御津工場	階数	地上2階
建設地	愛知県豊川市	構造	S造
用途地域	工業専用地域、法22条区域	平均居住人員	317 人
気候区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	事務所、工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2018年2月 予定	評価の実施日	2017年7月12日
敷地面積	10,000 m ²	作成者	本多希巳枝
建築面積	2,202 m ²	確認日	2017年7月20日
延床面積	2,544 m ²	確認者	本多希巳枝



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.0 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

☆☆☆☆☆

標準計算

- ①参照値 100%
- ②建築物の取組み 83%
- ③上記+②以外の 83%
- ④上記+ 83%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 2.9

Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.7

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.1

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.8

LR 環境負荷低減性

LR のスコア = 3.1

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.2

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.9

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.0

3 重点項目

①地球温暖化への配慮

3.6

③敷地内の緑化

2.0

外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)

20.1 %

建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)

0.0 %

②資源の有効活用

2.8

④地域材の活用

1.0

<外装材に使用した地域性のある材料>

なし

<建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材>

なし

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
 LR-3 1 地球温暖化への配慮
 ②資源の有効活用
 Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
 LR-2 2 非再生性資源の使用量削減
 ③敷地内の緑化
 Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた面積}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部						建物全体・共用部		居住・宿泊部分		全体
配慮項目	独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄		評価点	評価点	重み 係数	評価点	評価点	重み 係数	評価点	評価点	重み 係数	全体	
Q 建築物の環境品質														2.9
Q1 室内環境														2.7
1 音環境														
1.1 室内騒音レベル														2.6
1.2 遮音														3.0
1 開口部遮音性能														3.0
2 界壁遮音性能														3.0
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)														3.0
4 界床遮音性能(重量衝撃源)														3.0
1.3 吸音														1.0
2 温熱環境														2.6
2.1 室温制御														3.0
1 室温														3.0
2 外皮性能														3.0
3 ソーン別制御性														3.0
2.2 湿度制御														1.0
2.3 空調方式														3.0
3 光・視環境														2.8
3.1 昼光利用														3.0
1 昼光率														3.0
2 方位別開口														3.0
3 昼光利用設備														3.0
3.2 グレア対策														2.0
1 昼光制御														2.0
3.3 照度														4.0
3.4 照明制御														3.0
4 空気質環境														3.1
4.1 発生源対策														4.0
1 化学汚染物質														4.0
4.2 換気														3.0
1 換気量														3.0
2 自然換気性能														3.0
3 取り入れ外気への配慮														3.0
4.3 運用管理														1.0
1 CO ₂ の監視														-
2 喫煙の制御														1.0
Q2 サービス性能														3.1
1 機能性														3.2
1.1 機能性・使いやすさ														2.3
1 広さ・収納性														3.0
2 高度情報通信設備対応														3.0
3 バリアフリー計画														1.0
1.2 心理性・快適性														4.3
1 広さ感・景観 (天井高)														5.0
2 リフレッシュスペース														5.0
3 内装計画														3.0
1.3 維持管理														3.5
1 維持管理に配慮した設計														4.0
2 維持管理用機能の確保														3.0
2 耐用性・信頼性														2.8
2.1 耐震・免震・制震・制振														3.0
1 耐震性(建物のこわれにくさ)														3.0
2 免震・制震・制振性能														3.0
2.2 部品・部材の耐用年数														2.7
1 躯体材料の耐用年数														3.0
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔														2.0
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔														3.0
4 空調換気ダクトの更新必要間隔														3.0
5 空調・給排水配管の更新必要間隔														3.0
6 主要設備機器の更新必要間隔														3.0
2.4 信頼性														2.6
1 空調・換気設備														3.0
2 給排水・衛生設備														2.0
3 電気設備														3.0
4 機械・配管支持方法														3.0
5 通信・情報設備														2.0

3 対応性・更新性				3.3	0.29			-	3.3
3.1 空間のゆとり				4.0	0.31			-	
1 階高のゆとり			階高3.96m	4.0	0.60			-	
2 空間の形状・自由さ			壁長さ比率0.13	4.0	0.40			-	
3.2 荷重のゆとり				3.0	0.31			-	
3.3 設備の更新性				3.2	0.38			-	
1 空調配管の更新性		②		3.0	0.17			-	
2 給排水管の更新性				3.0	0.17			-	
3 電気配線の更新性				3.0	0.11			-	
4 通信配線の更新性				3.0	0.11			-	
5 設備機器の更新性				3.0	0.22			-	
6 バックアップスペースの確保			主要設備周りには余剰スペースあり	4.0	0.22			-	
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.35			-	2.8
1 生物環境の保全と創出		独自③		2.0	0.30			-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮		独自④	敷地外周ほぼ全てに緑地を配置	4.0	0.40			-	4.0
3 地域性・アメニティへの配慮				2.0	0.30			-	2.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		独自④		2.0	0.50			-	
3.2 敷地内温熱環境の向上				2.0	0.50			-	
LR 建築物の環境負荷低減性									3.1
LR1 エネルギー					0.40				3.2
1 建物外皮の熱負荷抑制			BPI _m =0.72	2.0	0.14			-	5.0
2 自然エネルギー利用				3.0	0.24			-	3.0
3 設備システムの高効率化			BPI _m =0.73	3.7	0.37			-	3.7
4 効率的運用				2.0	0.25			-	2.0
集合住宅以外の評価				2.0	1.00			-	
4.1 モニタリング				3.0	0.50			-	
4.2 運用管理体制				1.0	0.50			-	
集合住宅の評価				-	-			-	
4.1 モニタリング				-	-			-	
4.2 運用管理体制				-	-			-	
LR2 資源・マテリアル					0.30				2.9
1 水資源保護				3.0	0.15			-	3.0
1.1 節水				3.0	0.40			-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				3.0	0.60			-	
1 雨水利用システム導入の有無				3.0	0.67			-	
2 雑排水等利用システム導入の有無				3.0	0.33			-	
2 非再生性資源の使用量削減				2.7	0.63			-	2.7
2.1 材料使用量の削減				2.0	0.07			-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.25			-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		②	-	3.0	0.21			-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		独自	-	1.0	0.21			-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材				-	-			-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		独自	躯体と仕上材が容易に分別可能	4.0	0.25			-	
3 汚染物質含有材料の使用回避				3.6	0.22			-	3.6
3.1 有害物質を含まない材料の使用			有害物質を含まない材料を使用	4.0	0.32			-	
3.2 フロン・ハロンの回避				3.5	0.68			-	
1 消火剤				-	-			-	
2 発泡剤(断熱材等)			GW以外はODP=0、GWP=3	4.0	0.50			-	
3 冷媒				3.0	0.50			-	
LR3 敷地外環境					0.30				3.0
1 地球温暖化への配慮		①	ライフサイクルCO2排出率91%	3.6	0.33			-	3.6
2 地域環境への配慮				2.5	0.33			-	2.5
2.1 大気汚染防止				3.0	0.25			-	
2.2 温熱環境悪化の改善				2.0	0.50			-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制				3.0	0.25			-	
1 雨水排水負荷低減		独自		3.0	0.25			-	
2 汚水処理負荷抑制				3.0	0.25			-	
3 交通負荷抑制		独自	駐車場の確保と、広めの乗入口を複数設置	5.0	0.25			-	
4 廃棄物処理負荷抑制				1.0	0.25			-	
3 周辺環境への配慮				3.0	0.33			-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.40			-	
1 騒音		独自		3.0	0.50			-	
2 振動		独自		3.0	0.50			-	
3 悪臭				-	-			-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				3.0	0.40			-	
1 風害の抑制				-	-			-	
2 砂塵の抑制				-	-			-	
3 日照障害の抑制				3.0	1.00			-	
3.3 光害の抑制				3.0	0.20			-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策				3.0	0.70			-	
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策				3.0	0.30			-	

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				3.6
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.6	0.10	
② 資源の有効活用				2.8
Q2-2	耐震性・信頼性	2.8	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.3	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	2.7	0.19	
③ 敷地内の緑化				2.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	2.0	0.11	外構緑化:20.1%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用				1.0
		(評価ポイント)		
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= $\frac{\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}}{\text{重みの総和}}$

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 株式会社 シンワ 御津工

計画上の配慮事項	
総合	敷地の三方が道路である為、緑地の配置、建物の見え方に配慮した
Q1 室内環境	内装材はF☆☆☆☆をほぼ全面的に使用する 正面の大きな窓により奥行きのある部屋も明るさを確保
Q2 サービス性能	従業員の方のリフレッシュに使えるスペースを大きめに設定
Q3 室外環境(敷地内)	緑地を効果的に配置
LR1 エネルギー	LED照明、空調も高効率機器を採用
LR2 資源・マテリアル	節水器具を採用
LR3 敷地外環境	周辺環境に対しては離隔距離が大きく、機器からの有害物質の排出もほとんど無く、影響を与えないようにしている
その他	